

スーパーグローバル大学創成支援（タイプB） 立命館アジア太平洋大学 取組概要

1. 構想の概要

【構想の名称】 Global Learning : 大学教育の新しい地平を目指す

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

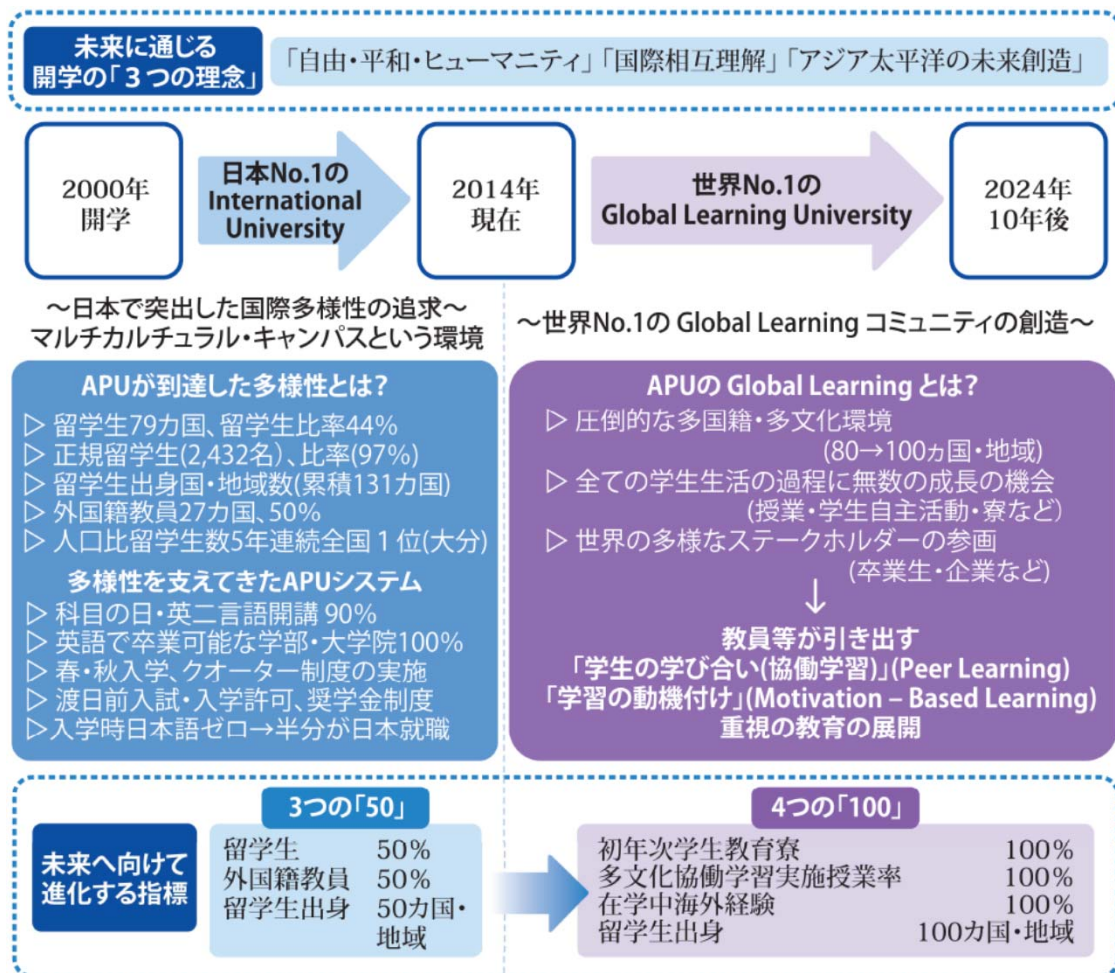
APUは「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」という開学時からの基本理念を前提として、世界でも稀有な「多文化教育環境の大学＝マルチカルチュラル・キャンパス」を実現し、わが国の高等教育の国際化を牽引してきた。こうした到達点に立脚して、今後10年間で「日本No.1のInternational University」から、「世界No.1のGlobal Learning University」へと進化化する。

【構想の概要】

日英二言語教育等に代表される国際標準の教学システムや世界的通用性ある入学システム等、これまで築いた環境・システムを活かして、新たに①Global Learningの手法開発、②国際的な教育研究・大学運営の質保証と向上、③Global Learningを支える多様な連携により、突出した評価を獲得し、グローバル化を牽引するひとつの大学モデルを構築する。

本事業で進める「Global Learning」は、APUの人材像を育成する教育システムであり、①圧倒的な多国籍・多文化環境を有し(学生受入・常時世界100カ国・地域)、②全ての学生生活の過程に無数の成長の機会があり(授業、学生自主活動、寮など)、③世界で活躍する卒業生、企業・団体など多種多様なステークホルダーが教育に参画すること、を通じて実現する。

多文化環境を活かした協働学習、多文化FD/SDセンター・初年次学生教育寮の展開、日本人学生の海外経験拡充、多文化オナーズ・プログラム開発、日・英以外の3・4言語目学習システム具体化、世界の卒業生が参画した授業やインターシップ等の教育展開を進めるほか、国際認証(AACSB等)取得等による全体の質向上と、多国籍・多文化の学生・教員、世界で活躍する卒業生等、ステークホルダー参画により、Global Learningコミュニティ作りを進める。



大学評議会・APU Governing Advisory Boardを両輪とした本事業推進体制

大学評議会

- ・学長をトップとする全学の最高決定機関
- ・本構想の方針策定、進捗確認、指示出しを行う

APU Governing Advisory Board

- ・国内外ステークホルダーによる大学運営の監督
- ・国際的な視点、多角的な視点でAPUを評価

【10年間の計画概要】

1. 教育

- ①日本人学生と留学生が混在する多文化協働学習の100%実施率を目指す。
- ②Global Learningの理論と実践を推進するため、「多文化FD/SDセンター」(仮称)を設置する。
- ③多文化・異文化経験など教育効果が高い国際教育寮「APハウス」を全ての初年次学生が活用可能な「初年次学生教育寮」へと展開する。
- ④日本人学生について、海外でのNGO活動への従事、海外企業でのインターンシップなど多様な海外経験を推進、在学中の海外経験100%を目指す。
- ⑤Global Learningを牽引する各種リーダー育成強化の取組の一環として、「オーナーズ・プログラム」を導入する。
- ⑥世界中で多様なフィールドで活躍する卒業生と連携し、APUの教育に還元する。
- ⑦海外重点拠点大学と協力したジョイント・デグリーを展開する。



2. 入学

- ①常時、100カ国・地域からの留学生受入を目指す。高校1～2年などの入学前の段階から、多文化教育環境下での特色ある教育プログラムなどを通じてAPUへの適性の高い志願者を見極め、入学後はその適性を活かした初年次教育へとつなげる「世界的な高大接続教育プログラム」を実施する。
- ②世界的な高大接続教育プログラム展開にあたり、国際高度専門職「アドミッション・オフィサー」を拡充する。

3. 連携

- ①「卒業生ネットワーキング・フォーラムや経営学講座」(起業やビジネス・マッチング支援)、「卒業生NGO Linkage」(世界中の卒業生のNGO参加者ネットワーク)を展開する。
- ②グローバル人材育成の企業研修を強化し、社会人と学生の交流を深める。

4. 質保証

- ①ビジネス教育の国際的認証評価機関、AACSB(本部:米国)とEQUIS取得(本部:ベルギー)の国際認証を目指す。
- ②QS World's Top Business Schoolsアジア部門でのトップ30入りを目指す。

5. 大学運営・ガバナンス

- ①APUステークホルダーを構成員とする大学運営の機関「APU Governing Advisory Board (仮称)」を設置する。
- ②APU Governing Advisory Boardに対応した大学執行部ポジション等において国際公募任用、年俸制を導入する。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

1. 多文化FD/SDセンター(仮称)構想

APUは、ミネソタ大学(米)やセント・エドワーズ大学(米)などと連携して、教職員の研修を実施している。こうした海外連携校とも協力して設置するセンターは、研究だけでなく、教職員の研修機能にも力点を置く。APUの多文化教育環境を活用することで、日本も含むアジア太平洋地域の多文化FD/SDの拠点を目指し、成果を広く還元していく。

活動の一つとして、特に英語が母語でない教員に多層的なFD支援を行う。また、世界の連携・協定大学と連携して、APUの多文化教育環境を活かした、国際標準での授業が可能となる授業高度化FDを実施する(下記は一例)。

- ▶ 多文化クラス・マネジメントや学生参画型の授業運営、成績評価手法や学習結果のアセスメント手法等。
- ▶ 英語非母語教員の英語での授業高度化プログラム、ミネソタ大学等との協働による授業改善ワークショップ。
- ▶ 実施コンテンツのパッケージ化ならびに連携大学への提供、研修プログラムへの他大学教職員の積極的な受入。

2. 卒業生連携

本事業では、出身国・地域が131カ国・地域に達し、1万人以上が世界で活躍しているAPU卒業生との連携が大きなテーマとなっている。

①卒業生との緊密な関係性を恒常的にAPU教育に活かすシステムの構築。卒業生とのさらなる連携を通じた日本人学生の海外経験100%の実現。

- ▶ Global Human Library with APU Alumni (卒業生の活躍を記録・蓄積して教材として活用)
- ▶ Global Alumni Lecture (卒業生がカリキュラムに参画する授業)
- ▶ Global Internship with Alumni (国内外にいる卒業生のもとでインターンシップ等経験)

②「APU Governing Advisory Board (仮称)」への卒業生参画

③「APU アドミッション・アソシエイツ(入試メンター)」制度(入試説明会等でのAPU・日本社会・卒業後のキャリア等の情報提供、入試サポート、入学手続後の各国の渡日前教育プログラムの協力等)への卒業生参画、等



2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合

国際公募の実施や、日本語を要しない教員任用の強化等で、さらに外国籍教員等の比率が向上(2013年85.3%→2014年85.7%)。

2. 職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合

毎年、全職員アンケート実施(海外滞在経験、英語運用力、就業経験、その他キャリア等)。当該データを蓄積しつつ、個別職員への丁寧な職員育成(Staff Development)を実施。

3. 全学生に占める外国人留学生の割合

開学当初より「留学生50%」を前提とした大学運営や英語コース等の教学システム等を基盤を構築。2014年度はASEAN等のリクルートを強化し、2014年の留学生割合は45.9%(なお2015年5月1日現在では49.5%)。

4. 日本人学生に占める留学経験者の割合

海外協定戦略見直し、新期プログラム拡充等により増加。さらに多様な海外経験100%を目指した国際戦略ワーキングを設置して派遣・拡充政策議論を開始。

ガバナンス改革関連

1. 卒業生・在学生・教職員が考えるSGU(2015年2月実施)

国内外1万人を超える卒業生の、大学運営・ガバナンスへの参画や、インターンシップ、授業・レクチャー協力支援等、本事業で目指す10年後のAPUをとともに議論する「SGU Kick off Event-Shape Your World, Shape Our Vision-Bringing APU to the Next Stage」を、学長主催により開催(卒業生等、世界20カ国から参加)。

2. 大学ガバナンス調査

本事業のガバナンス改革の柱として「APU Governing Advisory Board(仮称)」の具体化を進めることから、米国、オランダ、シンガポール等のリベラルアーツ系、新興大学、国際性の高い大学等のガバナンス調査を実施し、報告書を作成・共有。

3. 事務職員の高度化への取組

APU職員は、毎日の留学生や外国籍教員等との日常的なやりとりの中で、異文化調整や多角的な視点、多様性への共感を涵養しており、この積み重ねが、職員組織全体の高度化の源。職員の英語力は既に他大学と比して高い到達点(右表)。今年度は学内英語講座や、英語力強化にも資する海外訪問プログラム等を実施。全職員(全有期・無期、英語力不問の事務契約職員等も含む)のうち、TOEIC900以上は24.0%に到達。

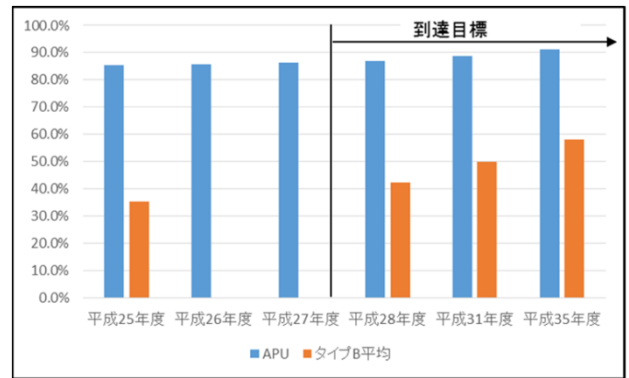
教育改革関連

1. 多面的入学者選抜の実施

渡日前入試で合格が決まった留学生と父母向けの渡日前教育プログラムを拡大実施(例:タイ、スリランカ)。スリランカでは新入生6名・父母9名・卒業生4名・在校生30名が集い、日本での生活や奨学金、日本語の勉強等のガイダンスを実施。タイでは10月以降3回実施し、合計人数は新入生・父母・卒業生・在校生等270名が出席。

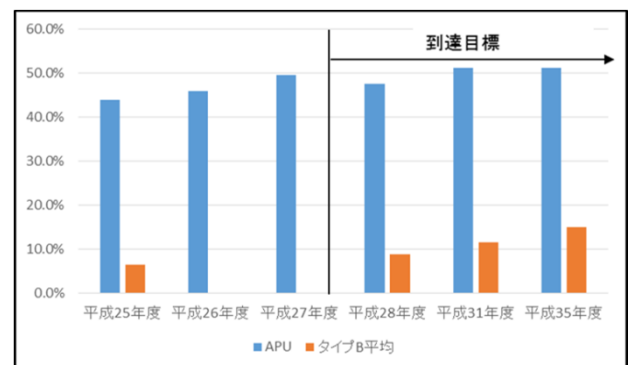
2. TOEFL等外部試験の学部入試への活用

本事業期間内でTOEFL等の外部試験結果を考慮しない入試は廃止。今年度は、海外留学生入試では出願資格としてTOEFLやIELTS等の基準を定めて入試判定に活用するとともに、日本人が主となる入試ではセンター試験方式でのTOEFL等スコアの点数換算等、見直し。



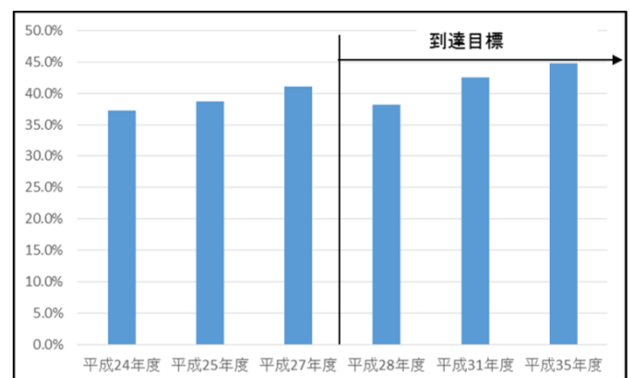
<共通の成果指標と達成目標>

①外国人・外国の大学での学位取得教員等の割合



<共通の成果指標と達成目標>

④全学生に占める留学生比率 5月1日時点



<共通の成果指標と達成目標>

⑯事務職員高度化・外国語力基準
APU:TOEICスコア800以上

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. 多言語を駆使し、世界で活躍するAPU卒業生

外国籍の友人の広がりや、APUらしい学生間交流の成果を表す指標。毎年度の学生アンケートで「10カ国以上の外国籍の友人」を把握。多国籍の学生生活や寮内の交流企画の強化で12.0%(2013年度)→14.4%(2014年度)へ増。

2. 圧倒的な多文化教育環境の活用、教育力の徹底した強化

世界の高校との高大接続(Academic Cultural Exchange=ACE)プログラムを本格実施。〈AAPBS10周年総会をホスト@APU〉海外各国ごとの戦略策定、在外日本大使館および公的機関との広報連携、さらには戦略的な高校訪問、企画等、APU独自広報の強化により、インドネシア、ベトナム、ネパール、ミャンマー、ドイツ等12カ国62名が申込。

3. 国際標準の質保証の追求

国際経営学部及び経営管理研究科における国際認証(AACSB)取得の取組を進め、2015年1月に海外の学部長3名のピアレビューチームによる実地視察を受け入れ。また国際認証や国際ブランディングを強化している海外ビジネススクール調査(韓国・延世大、ノルウェー・BI等)や、AACSB主催セミナー(米国、マレーシア)に参加。また150名を超える世界のビジネススクール学部長等の参加により、アジア太平洋地域のビジネススクール協会(AAPBS)の創立10周年総会をAPUがホストし、国際的な質保証の取組を進めた。

4. 職員の国際標準化

入試や国際交流等の国際高度専門職としての特定職員を10名配置して、各種事業が進展。大学運営を支える職員の国際標準化等を視野に、我が国のグローバル化を牽引してきた5大学協働の教職員研修のワークショップを行う等、他大学への貢献を進めたほか、重層的な職員高度化支援プログラムを強化・充実。3カ国以上の言語運用力を有する職員は、全職員のうち12.2%に到達。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. 世界の卒業生と大学の連携

部署横断型の教職協働プロジェクトを立ち上げ、卒業生の下でのインターン、招聘レクチャー、卒業生が参画する授業実施、卒業生の活躍のデジタル・ライブラリー化等の基本計画を議論。あわせて海外大学の校友戦略の調査実施等、世界中の卒業生の活躍を大学に還元するための基盤づくりを実施。

2. 多様なグローバル人材育成の拠点としての企業・地域との連携

グローバル企業の若手・中堅人材を主対象とした企業研修を拡大。

- ①英語科目履修、国際寮APハウスでの生活、留学生との協働学習等、APU環境を活用した異文化適応向上プログラム(NEC等11社)
- ②アジア等の現地法人社員等向けの日本語集中学習および日本企業・ビジネス理解等を深める短期~中期プログラムの実施(三菱東京UFJ銀行、三菱UFJリース等からの受託26名)



〈異文化理解を促進する実践的企業研修の受託〉

3. 多文化FD/SDセンター構想

海外大学FD・SDベンチマーク調査を、教員・職員協働グループで実施(4カ国)。

University of British Columbia (UBC, カナダ)等の連携実績大学に加え、開学時期、学生規模、学問分野等、APUと共通性を有する特長的な大学をベンチマーク対象に訪問。多様な目的と手段をもったFD・SDの取り組み(例:教室内での教授法、教職員個人のキャリア開発、教員・職員評価、等)を調査し、多文化FD・SD構想具体化の重要な知見を得た(2016年度に同センターを具体化)。

■ 自由記述欄

1. 歴代学長が集うパネル企画

本事業の目的や概要等をAPUのステークホルダーに説明するとともに、効果的な事業実施等の助言を得るための企画として、教職員・在学生・卒業生が集うキックオフ企画(2014年11月)「歴代学長と卒業生、学生によるパネルディスカッション～あなたのAPU物語～あれから10年、これから10年」を開催。終了後は日英で報告書を作成、広報。



〈前列左・カセム第2代学長、前列中・坂本初代学長
前列右・是永現学長〉



3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 外国籍教員/外国大学の学位取得等の専任教員

開学当初から「外国籍教員50%」を維持し、外国の大学で学位を取得した日本人教員等を合わせると、専任教員全体の85.0%となっている(2016年5月1日現在)。図1の通り、他大学平均と比較しても圧倒的な割合を維持している。

2. 外国籍/外国大学の学位取得の専任職員

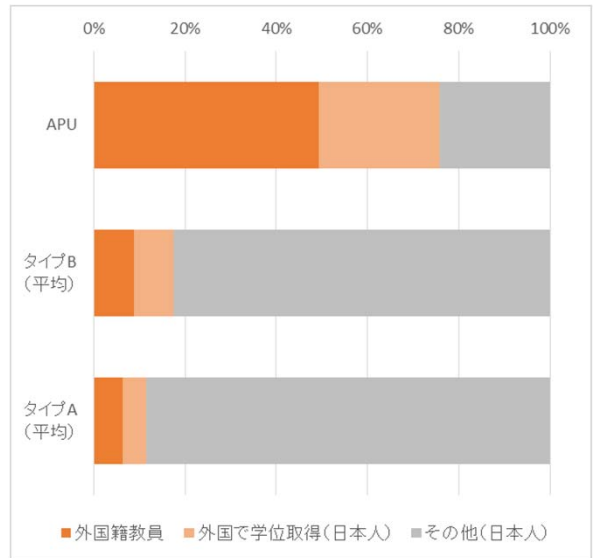
海外で1年以上の就業または研修経験のある職員を積極的に採用したことで、昨年度の実績より2.7%増加し、全体の34.2%となった。

3. 外国人留学生割合

開学当初より「留学生50%」を前提とした大学運営や英語コース等の教学システム等を基盤を構築。各国のリクルートを強化し、2016年5月1日現在の留学生割合は50.0%となった(前年度同時期47.6%)。

4. 海外協定校の拡充と重点拠点大学との協議実施

新たに25大学と協定締結し、うち16校と学生交換の連携プログラムを実施することとなった。本学の海外重点拠点大学であるSt.Edwards大学、Carroll カレッジ(いずれも米)と、共同学位や短期交流、学生交換を含む複数の連携プログラムを強化、拡大する方針で合意し、各プログラムの協働運営について、今後の具体的な計画を策定した。



〈図1: 外国籍教員・外国での学位取得教員等の比較 (2016年5月1日現在)〉



〈卒業生と学長・学部長との意見交換〉

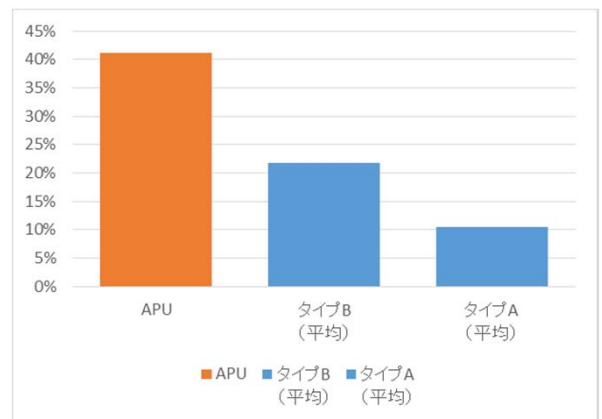
ガバナンス改革関連

1. ステークホルダー連携によるガバナンスの高度化

世界の多様なステークホルダーによる大学運営の助言機関として「APU Governing Advisory Board」設置の検討を進めた。2014年度は、米国・英国・オランダ・シンガポール等の高等教育制度やガバナンス概要(大学の意思決定機関、学長・学部長等の決定プロセス、大学諮問機関等)を調査・比較した報告書を作成し、結果報告会を開催した。また、香港科技大学や米国キャロル・カレッジ等、海外大学のベンチマーク等も進めている。今後も、卒業生等の多様なステークホルダーとのつながりを活かした大学運営のあり方の検討を進める。

2. 事務職員の高度化

TOEIC800点相当以上の職員は、昨年から1.8%増加し、全体の43.2%となった(図2)。また経理・事務等で英語不問の有期職員を除くと、TOEIC900点相当以上が42%に達した。日常的な英語対応や業務運営、また海外研修プログラムの派遣強化、さらには目標未達成の職員を対象とした講座実施も強化・充実させている。



〈図2: 外国語力基準を満たす事務職員の比較 (APUではTOEIC800点相当以上で設定)〉

教育改革関連

1. Assurance of Learning(AOL)の学内浸透と2017年度カリキュラム改革議論への活用

AOLに関する調査および教職員の理解促進のための取り組みや、AACSB等の認証評価取得に向けた調査等の成果を2017年度カリキュラム改革の議論に活かすことができた。2017年カリキュラムでは、AACSBが定める各種基準を満たす中で、必修科目の増加や授業運営の改善などを予定しており、学生がこれまで以上に世界水準の教育を受けることができるようになる。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. 国際学生の出身100カ国・地域

学部・大学院合わせて84カ国・地域となった(昨年同時期77カ国・地域)。2023年度100カ国・地域(常時)学生受入のため、アフリカ大陸・中米地域等の希少国を訪問し、学生募集活動や、現地ネットワーク構築を展開した。また、アドミSSIONSホームページを再構築し、コンテンツ改良や検索性の向上を図った。

2. 日本人学生の在学中の多様な海外経験100%

日本人の在学海外経験率は80.3%で、2019年目標(80%)を前倒し達成した。海外派遣プログラムの強化とあわせ、各種データから改善を進めるInstitutional Researchにより、学生の渡航経験データを精緻に収集・分析し、昨年度から28.6%増加となっている。

3. ビジネス系学部・大学院の国際認証(AACSB)への挑戦

世界のビジネス・スクールのうち、わずか4%程度しか取得していない国際標準の認証(AACSB)取得に挑戦しており、2015年度末には最終の実地視察を滞りなく終了した。日本の大学で、英語でも学位取得可能なコース(学部・院)での認証は初めての試みとなっている。



〈 84カ国・地域の学生が共に学ぶキャンパス 〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. 世界で活躍する卒業生との連携

正課科目の中で卒業生がゲストレクチャーを行ったほか、秋 semester には、全1回生が履修する「新入生ワークショップⅡ」で4名の卒業生がレクチャーを行った。また、国内外で特長的な活動をしている卒業生約20名に、「APUらしい卒業生ストーリー」のインタビューを行い、APUウェブサイトでの公開を開始した。また、シンガポールと東京で、学長・学部長等と卒業生との懇談会を実施し、10年後にむけたAPU将来像の意見交換を行った。



〈 学長・学部長と卒業生の懇談会 〉

2. 寮を活用したオナーズ・プログラムの方向性の策定

APUにおける多文化環境の活用による学生の成長のフレームワークを確認したうえで、寮も活用したオナーズ・プログラムは、正課をベースとするのではない領域で多文化環境を活用した各種プログラム等の展開を図る方向で具体化。「Knowledge」「Skills」「Character」を結びつけた学びのスタイルを志向し、海外大学調査も行い、2016年度パイロット・プログラムの試行目処をたてた。

3. 多文化FD/SDセンター開設に向けた取り組み

2015年度は、他大学ベンチマーク調査と教員に実施したアンケート結果を踏まえてセンターの具体的なカリキュラムドラフトを作成した。また、12月には海外から講師を招き、2016年度のセンター開設に先駆けたキックオフ・ワークショップを開催し、APU教職員だけでなく、他大学や韓国・台湾等海外の大学からも参加者を受け入れた。



〈 多文化FD/SDセンターキックオフワークショップ 〉

■ 自由記述欄

1. 世界トップの学生との切磋琢磨

世界の大学が開催する「ビジネス・ケース・コンペティション(BCC)」に7回参加。とりわけカナダのブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)の大会では、APUの学生チームが世界トップ大学生に伍して、3位入賞(日本の参加はAPUのみ)。その他APUキャンパスでBCCの開催も行い、世界トップ大学生との教育交流が進展した。



〈 学びの実践としての世界大会@UBC大会3位入賞 〉